



④灞陵橋のたもとに立つ関羽像は、これまでの許昌テイストから脱却した野心作。抽象的な芸術センスもあるんだ、というアピールを感じる。

⑤公園入ってすぐの例の像。関羽の感謝の度合いがどんどん大きくなっているような気がする。

⑥客人と語る曹操の前で遊ぶ魏の子供たち。

⑦公園入口には売店が。「三国文化・許昌読本」という書籍は、三国文化を教育に取り入れた許昌市の某校教諭の著書。「劉備のほうが主流だけれどそれはいろいろ不公平な話です」と書かれている。

⑧「関帝廟」の正面。平日は静かでのんびり。

⑨内部の灞陵橋レプリカもかなり精巧。

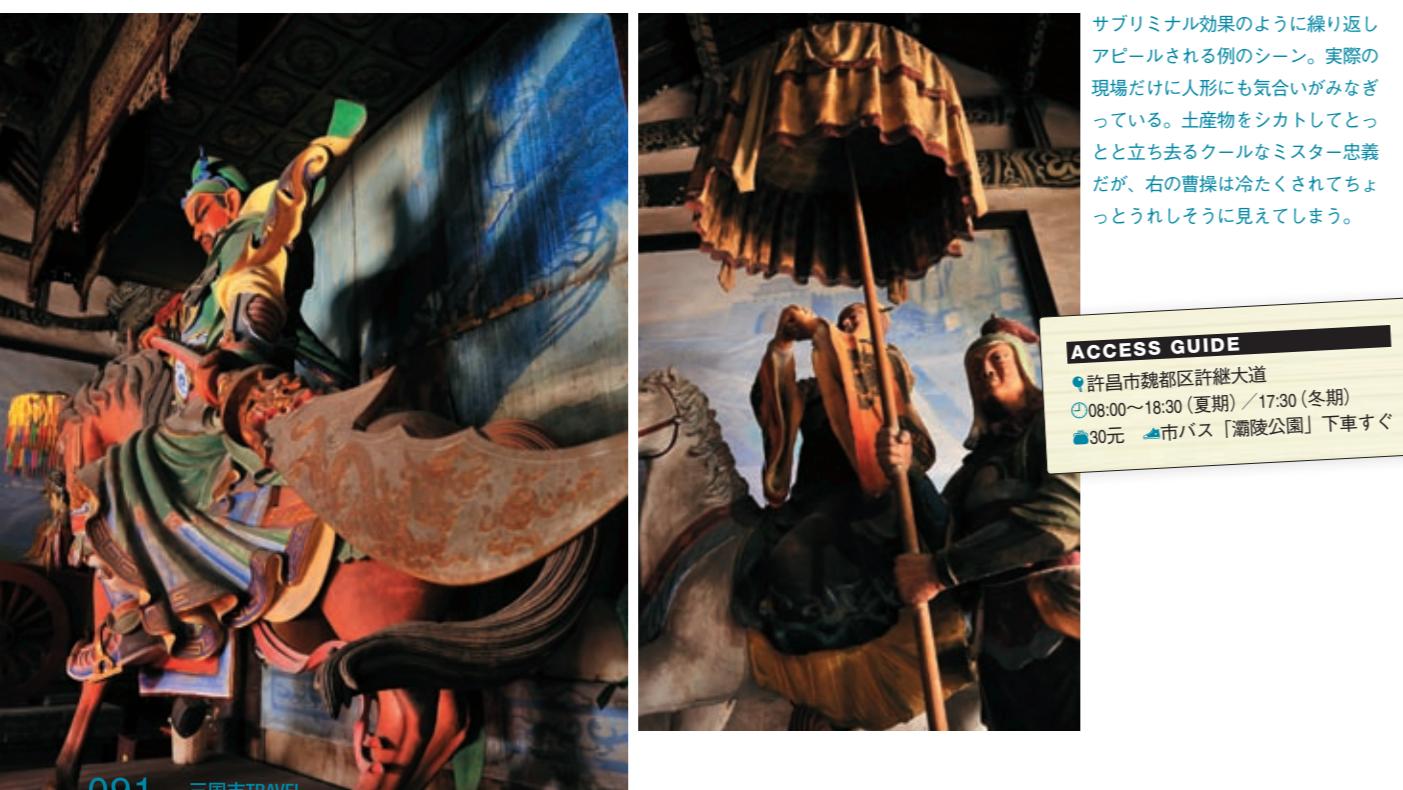


## 曹操&関羽“別れ”的場 灞陵公園

はりょうこうえん／バー・リン・ゴン・ユエン

劉備の元へ戻る関羽を、曹操が見送ったとされる灞陵橋（八星橋）は、現在は公園の一角にある。曹操の心の広さをアピールする絶好の場だが、あまりに丁寧な見送りだったため、逆に関羽から疑われたのは残念だ。しかし許昌にいると、なぜ「裏なぞないわ！」という気分になるのだろう。市街地からバスで約10分。入るところに例の「感謝する関羽」と（以下略）像がそびえ立っているが、公園自体はおだやかで自然も多く、地元小学校の遠足スポットだ。この日も大量の小朋友（中国語で子ども）が押し寄せ、曹操像の前で元気よくピースサインを決めていた。「曹操様に親しむには早期から教育が必要」という学校側の判断があるに違いない。

橋はすでに改装され、あまり風情はない。当時の橋は公園内の「関帝廟」で再現されており、こちらのほうが雰囲気はある。ちなみにこの廟の回廊では、なぜか「許昌原人」の骨の写真を常設展示中。さらにトドメの「感謝する（以下略）像を前に「もうわかつたよそれは……」とつぶやくのは非常に正しい。



サブリミナル効果のように繰り返しアピールされる例のシーン。実際の現場だけに人形にも気合いがみなぎっている。土産物をシカトしてとつと立ち去るクールなミスター忠義だが、右の曹操は冷たくされてちょっとそれしそうに見えてしまう。

**ACCESS GUIDE**  
●許昌市魏都区許繼大道  
①08:00~18:30(夏期) / 17:30(冬期)  
●30元 市バス「灞陵公園」下車すぐ



①「関帝廟」の関羽像といい、許昌は全体的に作りが高品質。

②しかし蜀の有名人像まで設置するのはいかがなものか。改めて言うが、ここは許昌である。

③躍動感あふれるゴールデン関羽は歌舞伎調。個人的にはかなり好みのティスト。